

<経済>

○ベトナム

東南アジアで初！日本語を第一外国語に！

【日本語学習者数上位 10 ヶ国・地域の変化】

順位	国・地域名	2012 年度学習者 (人)	2015 年度学習者 (人)	増減率
1 位	中国	1, 046, 490	953, 283	△8.9%
2 位	インドネシア	872, 411	745, 125	△14.6%
3 位	韓国	840, 187	556, 237	△33.8%
4 位	オーストラリア	296, 672	357, 348	+20.5%
5 位	台湾	233, 417	220, 045	△5.7%
6 位	タイ	129, 616	173, 817	+34.1%
7 位	米国	155, 939	170, 998	+9.7%
8 位	ベトナム	46, 762	64, 863	+38.7%
9 位	フィリピン	32, 418	50, 038	+54.4%
10 位	マレーシア	33, 077	33, 224	+0.4%

2016 年 9 月 15 日、ベトナムの小学校 5 校（首都ハノイと南部の主要都市ホーチミン）で、日本語を英語などと並ぶ「第一外国語」として教える授業がスタートしました。対象は、小学校 3 年生以上で、2016 年～2017 年は、現在の 5 校体制で試験的に実施し、その後、順次拡大していく見込みとなっています。

なお、ベトナムでは、2003 年より一部の中学校で日本語教育が導入されていますが、初等教育段階での日本語の第一外国語導入は、東南アジアで初となります。

今回の日本語教育導入のきっかけは、日本の過去からの経済援助の功績、並びに更なる投資、企業誘致の促進を狙ったものだと考えられています。実際、日本のベトナムに対する 2015 年の直接投資額は、世界第 3 位の 18.4 億米ドル、累積投資認可額（2015 年 12 月時点）は、384.1 億米ドルで世界第 2 位です。ベトナム（ホーチミン）の玄関口、「タンソンニャット国際空港」も、日本の ODA（政府開発援助）で作られる等（国際線ターミナルの到着フロアの外には、ベトナム政府からの感謝の意を込めた石碑が埋め込まれている）、ベトナムの経済成長には日本が欠かせない、といっても過言ではないでしょう。

日本人にとって、日本語の第一外国語導入は嬉しいことですが、多くのベトナムの小学校で日本語教育が開始される際には、どのようにして日本語教師を確保するか等、問題は山積みで、日本語教育のベトナム全土への導入の道のりは、険しいものとなりそうです。

<社会>

○香港

「地方銀行秋祭 in 野村證券」開催



野村證券（香港）主催による富裕者層を対象とした地方銀行秋祭りが開催されました。当日は、地方銀行それぞれが地域の特産品や郷土品を展示し、来場されたお客様は目を輝かせながら各ブースを回っていました。

特に人気が高かったのは、日本茶をワインボトルにボトリングした高級茶です。プレミアム感と日本茶をワイングラスで飲むという物珍しさが受け、イベント期間中は行列が途絶えることはありませんでした。日本の食材が豊富と言われている香港ですが、まだまだ潜在的なニーズが残っていると痛感させられる機会となりました。

意外な発見は、当行が展示、試食を実施していたイカ天チップスです。現在、香港ではイカ天チップスが単なる

スナックではなく、「UDON（うどん）」の具材（てんかすの代わり）としてブームになっているということで、日本や他国でも、UDONの具材としてアピールすれば売れるのではないかとアドバイスをいただきました。確かに、現在UDONは、ラーメンに続く日本のソウルフードとして世界的に注目を浴びはじめています。スナックではなく、UDONの具材として新たな販売の活路を見出していく、そんなアイデアもおもしろいかもしれません。



また、当日はそれぞれの地域の魅力を発信するアピールタイム（各銀行による英語でのプレゼンテーション）も設けられました。私たちは、ローカルスタッフによる厳しいレッスンと模擬プレゼンを経て、広東語によるプレゼンテーションを敢行。香港人のハートを射止め、愛媛の魅力発信、観光誘致に微力ながら貢献できたのではないかと感じています。



香港・広東省の見本市予定 (2016 年 12 月～2017 年 2 月)

香港

見本市名	場所	期間
World SME Expo (流通取引サービス、金融、IT・eビジネス等)	HKCEC	12/1～12/3
香港スマートホーム展	HKCEC	12/24～12/27
香港自動車ショー	HKCEC	12/24～12/27
香港メガショーケース (電気製品、家庭用品等)	HKCEC	12/24～12/27
香港フードフェスティバル 2016	HKCEC	12/24～12/28
第 43 回香港おもちゃ&ゲームフェア	HKCEC	1/9～1/12
LOHAS EXPO 2017	HKCEC	2/23～2/25
香港ダイヤモンド&パール展	亜州国際博覧館	2/28～3/4

※ HKCEC : 香港コンベンション&エキシビジョン・センター

※ 亜州国際博覧館 : アジアワールドエキスポ (香港国際空港側展示会場)

広東省

見本市名	場所	期間
中国国際食品包装・加工機械展	琶洲会場	12/5～12/8
中国国際低炭素素材展	PWTC	12/7～12/9
第 14 回自動車関連部品フェア	SZCEC	2/15～2/17
Personal Care&Home Care Ingredients	PWTC	2/21～2/23

※琶洲会場 : 中国出口商品交易会琶洲展示館 (広州)

※PWTC : 保利世界貿易中心 (広州)

※SZCEC : 深圳コンベンション&エキシビジョン・センター

上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご留意下さい。

★トピックスレポート（香港人スタッフ便り）★

Electric Vehicles 香港を駆ける！！



自動車の取得や維持費用が高額な香港では、市民の足として地下鉄、路面電車と並び路線バスがよく利用されています。運行路線は 750 以上あり、朝 6 時から深夜 0 時頃まで運行しており利便性も高い一方で、車体からの排出ガスによる大気汚染が近年問題となっていました。

そこで政府は大気汚染の改善と温室効果ガスの削減のため電動バスの導入を促進しています。その一環として、電動バスの取得税免除や購入費用を法人税控除の対象とすること、またテスト走行に必要となるバスの購入費用 1 億 8,000 万香港ドル（約 27 億円）をバス会社に提供するなど、手厚い支援策を実施しました。

策を実施しました。

このような働きかけもあり、2013 年 9 月から試験導入が開始されました。当初は車体価格が高額であり、充電による稼働時間も短かったため導入路線は限られていたものの、2016 年 9 月からは香港島における主要区間での導入が開始され、私たちが目にすることも多くなりました。また、当初中国本土製であった電動バスですが、最新車種は政府と民間自動車会社の共同開発により香港製となっています。



政府はバスのみならず電気自動車、電動タクシーを促進するため、民間企業とともに充電設備を増やすよう積極的に動いています。2016 年 6 月末現在では香港全域を網羅する形で 1,300 台以上の大小さまざまな公共充電設備を配置しています。政府はさらに関連するガイドラインを整え、市民に向け電動自動車についての情報提供や技術的なサポートを行っています。

香港での大気汚染対策はまだ始まったばかりです。しかし私は、近い将来 Electric Vehicles がより一般的になり、それらが汚染を軽減してくれると願っています。